

新潟市の行政区の名称について
(報告)

平成18年1月20日

新潟市行政区画審議会
検討委員会

はじめに

平成17年10月5日に開催された第9回新潟市行政区画審議会で、新潟市の行政区の名称について、市長より諮問を受けた。諮問に際し市長からは、「区名は、住所の一部となる等、市民にとって身近な問題であることから丁寧な審議をお願いしたい。」との考えが示された。

審議会では、「区名についての基本的な考え方」を定めた後、区名案を市民から募集することとして、10月31日から11月21日を募集の期間とした。

平成17年11月30日に開催された第11回新潟市行政区画審議会において、区名案の応募の集計結果をもとに、区名意向調査に向け今後の円滑な審議のために、行政区画の編成等に引き続き、検討委員会で区名候補の絞り込みを行うこととなった。

検討委員会では、「区名についての基本的な考え方」にもとづき、各区の特性やイメージ・語感や読みやすさなどを勘案して5回に亘り議論を重ね、またその間に各地域間での協議調整を要請するなど、多面的な検討のもとに区名候補の絞り込みを行い、最終的に検討委員会としての区名候補案各区5案を選出したものである。

検討の経緯

検討委員会は、平成 17 年 12 月 5 日から平成 18 年 1 月 16 日の間で、計 5 回開催した。その概要は、以下の通りである。

第 6 回検討委員会（H17.12.5）

- ・「区名に関する基本的な考え方」を検討の基本とすることを確認した。
- ・応募数の多寡に関わらず検討の俎上に乗せることを確認したほか、応募数の取り扱いについて議論した。
- ・旧市町村名を区名でなく町(字)名とする可能性などを検討した。
- ・候補の絞込み作業にあたって、各区の特徴やイメージも重要であることから、区名をカテゴリーごとに分類することとなった。

カテゴリーは、以下の 7 つの項目を設定した。

- (1) 名・特産品 (2) 地形・地物 (3) 代表的な施設 (4) 方位
- (5) 地名 (6) 歴史 (7) その他

第 7 回検討委員会（H17.12.14）

- ・カテゴリーに分けた区名案を今後の検討の参考とすることとした。
- ・検討委員会で絞り込む区名案数を、1 区あたり 7 つとすることに仮置きして検討に入った。
- ・カテゴリー分けした区名案を参考にして、各委員が 1 区に付き 5 つ以内の区名案を選出し、その結果を次回に報告することとした。
- ・旧市町村名の取り扱いについては、募集時にも賛否様々な意見があったことや、区によってはその取り扱いで大きく意見が割れているところもあり、旧市町村名を区名の候補とすることが地域の一体感の醸成を阻害する懸念があることから、検討委員会としては、旧市町村名の応募数が最も多かった区（1 区・4 区・5 区・6 区・8 区）の地域審議会やコミュニティ協議会・自治連合会等を対象として、区名に旧市町村名を使用することについて、1 2 月 2 7 日までを目途に意見を聞くこととした。

第8回検討委員会（H17.12.19）

- ・各検討委員が選出した区名案の報告を受け、各委員の選出にあたっての考え方や選出理由について議論した。

【各委員の考え方・選考理由の主なもの】

比較的文字数が少なく、読みやすいものとした。

複数の旧市町村で構成されている区は、特定地域名を使わないようにした。また、共通性のある区名を考慮した。

語感や、読みやすさなどを考慮した。

方位の使用も考慮した。

区の特徴を考え、旧市町村名を組み合わせた合成名も対象とした。

- ・「区名に関する基本的な考え方」と「各委員の考え方や選考理由」をもとに、1区あたり7つの候補に絞り、仮置きとした。

第9回検討委員会（H18.1.6）

- ・第7回検討委員会の後に依頼をした各地域審議会やコミュニティ協議会・自治連合会等の意見について、1区、4区、6区、8区から回答があり、その報告を受けた。
- ・5区は、「引き続き協議中」であったため、改めて期限を設けて5区の報告を受けた後で、検討委員会として最終決定することとした。
- ・意向調査をする際の区名候補の数は、審議会において決定されることであるが、3～5つと仮定して、検討委員会区名候補数を5つとした。
- ・前回、仮置きした区名案のうち漢字や読みが重複しているものなどを整理し、候補の削除や新たな追加を行い、1区あたり5つの候補に仮置きした。

第10回検討委員会（H18.1.16）

- ・協議中であった5区の報告を受け、伺ったすべての区からの回答がそろったことから、旧市町村名の取り扱いについて議論し、結論として「すべての区で旧市町村名については、区名の候補としない」と決定した。

- ・ただし旧市町村名の取り扱いは、審議会で改めて確認していただくことを附帯意見に記すこととした。
- ・仮置きしていた各区5つの区名案について、方位の取り扱いや考え方等を議論し、確定をした。

区名案候補の数について

各区の区名の候補数は、最終的に5つとした。

これは、今後実施される予定の区名意向調査の時の候補の数を3～5個と想定をした上で、今後審議会での審議の中で、新たな案が追加される可能性も勘案したことによる。

区名の候補と考え方

区	区名案	よみ	考え方
1区	阿賀北	あがきた	阿賀野川の北東であり、昔から阿賀北（揚北）と呼ばれ、地域に馴染んでいる名称から。
	北	きた	新市域の中で最も北に位置する区であることから。
	豊北	とよきた	豊栄と北地区という2つの名称の合成から。
	豊浜	とよはま	豊栄と松浜・南浜という2つの名称の合成から。
	豊	ゆたか	豊栄の一文字であり、豊かな区というイメージから。
2区	阿賀西	あがにし	阿賀野川の西側に位置する区であることから。
	旭	あさひ	東の方向を意味するイメージから。
	港東	こうとう	新潟港（西港）の東側に位置する区であることから。
	通船	つうせん	通船川が区の中を通っていることから。
	港	みなと	海の港、新潟港（西港）と空の港、新潟空港があることから。
3区	信濃	しなの	市内を流れる大河・信濃川から。
	中	なか	古くからの中心地である本庁地区と沼垂地区を含む区なので。
	白山	はくさん	新潟市を代表する日本初の都市公園である白山公園があり、市民に親しまれていることから。
	万代	ばんだい	国の重要文化財である萬代橋があることから。また、表記についてはわかりやすいことから「万代」とした。
	柳都	りゅうと	新潟市の木は柳であり、堀と柳の町のイメージから。
4区	芦原	あしはら	豊かな水郷をイメージさせることから。
	梅田	うめだ	名産である梅と田園のイメージから。
	江南	こうなん	信濃川の南側に広がる区であることから。
	湖南	こなん	鳥屋野潟の南側に広がる区であることから。
	瑞穂	みずほ	瑞々しい稲穂のことであり、稲穂の実る田園のイメージから。

区名の候補と考え方

区	区名案	よみ	考え方
5区	秋葉	あきは	地区内にある秋葉丘陵から。
	さつき	さつき	5区の名産品であり、新津と小須戸の象徴である花と緑のイメージから。
	新須	にいす	新津と小須戸という2つの名称の合成から。
	美咲	みさき	新津と小須戸の象徴である花と緑のイメージから。
	緑	みどり	新津と小須戸の象徴である花と緑のイメージから。
6区	果豊	かほう	果物の生産が多い地区であり、果物が豊富なイメージから。
	南	みなみ	新市域の中で最も南に位置する区であることから。
	みのり	みのり	稲穂や果物が実るイメージから。
	桃花	ももはな	桃の生産地であり、その花の美しいイメージから。
	若葉	わかば	農産物の生産が多い地区であり、緑が豊かな区のイメージから。
7区	汐美	しおみ	日本海の汐の美しいイメージから。
	新川	しんかわ	新川が区の中を通過していることから。
	文教	ぶんきょう	複数の大学があり、市内の学術研究の中心地となっていることから。
	美浜	みはま	市内で一番砂浜が長く、美しい砂浜のイメージから。
	夕映	ゆうばえ	日本海夕日ラインがあり、日本海に沈む美しい夕日のイメージから。
8区	角田	かくだ	地区内にある角田山から。
	多宝	たほう	地区内にある多宝山と、宝が多いという名前の持つイメージから。
	西蒲	にしかん	西蒲原(郡)という地域の名称から。
	穂波	ほなみ	海岸線を持つ田園地帯であり、波のようにゆれる美しい稲穂のイメージから。
	美郷	みさと	豊かな自然に恵まれた美しい郷というイメージから。

区名候補の選考にあたり特に留意した事項

旧市町村名の使用について

1区・4区・5区・6区・8区では、旧市町村の名称が、区名案の中で最も応募数が多かった。

また区名案募集の際の区名に関する意見では、旧市町村名の使用に対して否定的と肯定的な相反する意見がいずれも寄せられた。

検討委員会では、検討の中で行政区画審議会が取りまとめた「区名についての基本的な考え方」と各地区の動向に照らし、この度の広域合併により新たに新潟市に加わった旧市町村名を候補対象とすることが、区内の一体感の醸成を阻害するのではないかと大きな懸念が生じたことから、旧市町村名の応募数が最も多かった区（1区・4区・5区・6区・8区）を対象とし、地域住民の意向に詳しい地域審議会やコミュニティ協議会等から旧市町村名を区名候補とすることについて意見を聞くこととした。

その結果は、以下のとおりである。

各地域審議会などでの意見

区	団体名	旧市町村名に対する意見
1区	豊栄地区地域審議会	・区の一体感の醸成を図るため、1区の区名については、「豊栄」を使用しないことに同意する。
	松浜・南浜・濁川コミュニティ協議会	・確かに応募数は多いが、北地区住民にとって、一体感の醸成を図る上からも何かと避けていただきたい。
4区	横越地区地域審議会	・審議会委員の6割は、亀田郷という歴史的な背景からすると、「亀田」がよいと言っている。4割は、将来を見据えて「新しい名称」と意見が割れた。
	亀田地区地域審議会	・大多数は、公募の結果を尊重すればよいと言う意見であった。 また、区としての一体感は重要であり、他の地域の意見も聞くべきであるといった意見もあった。
	大江山自治連合会	・自治連合会の総意としては、旧市町村名(亀田)を使うのは反対である。

4区	曾野木地区自治連合会	・区名は新たな名前の方がよいのではないか。
	曾野木団地自治連合協議会	・4区全体にふさわしい名前がよい。皆、小さい村や部落でも地名には誇りを持っている。当然、自分の所の名前を付けたくなる。よって、旧市町村名はやめてほしい。
5区	新津地区地域審議会	・意向調査の実施の際、「新津」の名称を候補の一つとされるよう、重大な決意を持って強く申し入れる。
	小須戸地区地域審議会	・旧市町村名を使うことは、不適切である。
6区	白根地区地域審議会	・審議会の中での多数意見としては、漢字、ひらがなの両方の表記を含めて、「白根」が妥当であるという意見であり、少数意見としては、一体感の醸成から、区名にこだわらず、町名として残す方法も可能ではないかという意見もあった。
	味方地区地域審議会	・新しい区が誕生するので、新しい名前がよい。
	月潟地区地域審議会	・新潟市と合併し、新・新潟市となったわけなので、旧市町村名は使わず、新しいスタートをすべきである。
8区	岩室地区地域審議会	旧市町村名を使用しないことで全会一致
	西川地区地域審議会	
	潟東地区地域審議会	
	中之口地区地域審議会	
	巻地区地域審議会	

検討委員会では、これら地域の意見を受けて、慎重に検討した結果、旧市町村名を区名の候補とすることについて、「区の一体感の醸成」を阻害するとの懸念が払拭することができないものと考え、すべての区で旧市町村の名称は、区名の候補に選考しないこととしたものである。

方位の使用について

方位は、簡潔で読み易く位置関係も分かり易いことから、市民生活上の不利益は見当たらないため、その使用について制限しないこととした。しかし、「旧新潟市域での東西南北の使い方」と「合併後の市域での位置関係」について相違があることから、全市的な整合性を優先して調整を行った。

また、「中央」については、中央とその周辺といった地域の格差等をイメージすると懸念されることから候補として選考しないこととした。

整合性を図る観点での候補調整

選考の過程において、イメージの重なりから、複数の区に同じ区名案があったり、^{みなと}港や^{みなと}湊という同じ読み方の区名案が残っていたが、区名意向調査を行う際の市民の混乱を防ぐ必要性から、重複しないよう調整した。

附帯意見

審議会における候補名の追加について

検討委員会では、いずれの名称が選択されても行政区の区名として、ふさわしい名称を候補名として選考した。区名案の募集結果では、多くの案が寄せられており、審議会において、新たな候補の追加も考慮されたい。

旧市町村名の取り扱い

旧市町村名を区名候補とすることについては、各地域からご意見を伺うなどした上で、「区名についての基本的な考え方」に照らし、検討委員会としての判断を行ったところである。しかし、地域によっては、様々な意見があることから、審議会においても、この件については、十分確認をお願いしたい。